

さいたま市長 2月定例記者会見

平成27年2月18日（水曜日）

午後1時30分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の朝日新聞さん、よろしくお願いいたします。
す。
- 朝日新聞 2月の幹事社を務めます朝日新聞です。よろしくお願いいたします。
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いします。
ます。
- 市 長 皆さん、こんにちは。
2月4日の立春を過ぎましたが、体感的には冬本番の日が続いております。
幸い本市には積雪などの大きな被害は出ておりませんが、全国的には記録的な暴風雪や積雪量となっているところも多く、被害も伺っております。
被害を受けた皆様には心よりお見舞いを申し上げたいと思います。
ところで、本市の誇る大宮盆栽が遠くベルギーの地で開催をされました盆栽展示会に出品されたことがさいたま観光国際協会のホームページに掲載されております。会場の写真を拝見すると、会場はかなりのにぎわいで、ヨーロッパでの盆栽人気の高さをうかがうことができます。
大宮盆栽も目立つ場所に展示いただいたようで、誇らしい気持ちになると同時に、ぜひこの人気をさらに高めて、海外の方を含め、一人でも多くの方に大宮盆栽のすばらしさを楽しんでいただければと思います。
それでは、本題に移りたいと思います。

市長発表：議題1「2015さいたまシティマラソンを開催します」

初めに、議題1「2015さいたまシティマラソンを開催します」についてご説明をさせていただきたいと思います。

さいたま市は市民の健康増進、スポーツ振興を目的としまして、「スポーツのまち さいたま」の実現を目指しております。

さいたま市が行う市民参加型のスポーツイベントとしては最大規模とな

りますさいたまシティマラソンを今年は2月22日の日曜日に開催いたします。

会場は、さいたまスーパーアリーナをメイン会場として実施をいたす予定であります。さいたまスーパーアリーナを会場としての開催は今年で4回目ということになります。

競技種目は、ハーフの部、そして3キロメートルの部、この2つの部に分かれております。今年は、9月24日からランナーの募集をいたしましたところ、わずか9日間で予定の人数を超え、締め切らせていただきました。年々人気が出ていることを実感いたしております。

申込者は、ハーフの部では1万1,353人、そして3キロメートルの部では4,164人、合計で1万5,517人の申し込みをいただきました。

年齢別では、小学校3年生から86歳の方まで幅広い年齢層の参加者にお越しをいただくことになっております。

住所地別では、北は北海道から南は沖縄まで、市外から7,246の方が参加をされることになっております。

また、前回に引き続きまして、東日本大震災からの復興を祈って特別参加募集枠を実施いたしておりますが、今年も変わらぬ思いで開催をしたいと考えております。

今年は、その特別参加枠からは、ハーフの部では110人、また3キロメートルの部では28人の皆さんにご参加をいただきます。

また、関連イベントにおきましても、双葉町の相馬流れ山踊りなど東北各地のステージイベントを実施いたします。東北の飲食、物販ブースの出店、義援金募集などを行う予定としております。

次に、コースでございます。まずはハーフの部からでございますけれども、ハーフの部は、昨年と同様でありますけれども、さいたまスーパーアリーナを出発点としまして、旧中山道をずっと通りまして、国道463号、そして第二産業道路を来まして、自治医大の前を通過してさいたまスーパーアリーナに戻ってくるというコースで行わせていただきます。

今大会では、新たにペースランナーが出走することになっております。設定は2時間ペースと2時間半ペース、ペース配分の目標としていただけ

ればと思います。ちなみに、今年も私自身、ハーフの部に出場する予定でございます。

次に、コースの3キロメートルの部についてでございますが、これはさいたま新都心の西口側を周回するコースとなっております、これも昨年と同様のコースでございます。

開催に伴いまして、周辺道路につきましては大規模な交通規制を行いますので、ご協力をお願いしたいと思っております。

前回ランナーの方から「応援の途切れないすばらしいマラソン大会である」という声を多数いただきました。市外から参加する多くのランナーへの何よりのおもてなしであると考えておりますので、今年も沿道での温かいご声援をお願いしたいと思います。

開会式はマラソンの前日の2月21日13時から、そして表彰式は22日日曜日の10時から、それぞれけやきひろば特設ステージ上で開催をいたします。

21日は、開会式に続きまして、今年は初めて「スマートウエルネスさいたま健幸フォーラム」と題しまして、ゲストランナーと私によりますトークショーを実施させていただきます。

また、ミズノ株式会社によりますランニングクリニックにおきまして、ランニングシューズの選び方などを伝授いたします。

その他、市内団体や協賛各社によります多彩なステージイベントや飲食物販のコーナーなどが出店する予定となっております。

マラソンに参加をしない方や応援のご家族の皆様にも楽しめるイベントとなっておりますので、ぜひご来場をいただきたいと思います。

今回のゲストランナーは谷川真理さんと大島めぐみさんのお二方でございます。お二人ともハーフの部に出場をする予定であります。

前回のさいたまシティマラソンにもご参加をいただきました埼玉栄高校出身の大島めぐみさん、そしてタレントやスポーツコメンテーターとしてもおなじみの谷川真理さんにも参加いただき、花を添えていただきます。お二人には開会式にもご参加をいただき、その後のトークショーにも参加をいただく予定となっております。

そのほか、応援ランナーといたしまして、さいたま観光大使やラジオパ

ーナリティー、プロスポーツチームなどからたくさんの方にご参加をいただきまして、大会を盛り上げていただくことになっております。

当日は、さいたまスーパーアリーナ1階の展示ホールが確定申告の会場となっておりますので、来場の際は沿道の警備員、係員の誘導に従って、気をつけてご来場いただきたいと思います。

ランナーの皆さんには、日ごろの練習の成果を存分に発揮いただくとともに、全国から集まる多くのランナーと絆を深めて、記憶に残るすばらしい1日にしていただきたいと思います。

市長発表：議題2「若田光一宇宙飛行士コーナー」を開設します

続きまして、議題の2「青少年宇宙科学館常設展示「若田光一宇宙飛行士コーナー」の開設」についてご説明をさせていただきます。

まず初めに、さいたま市と若田宇宙飛行士とのかかわりについて説明をさせていただきます。

初めての長期滞在となります2009年3月から7月までの通算3回目のミッションから帰還した際には、大宮ソニックシティで行われました帰還報告会におきまして、青少年宇宙科学館と宇宙劇場の両館の名誉館長にご就任をいただきました。若田宇宙飛行士には、名誉館長として、さいたま市の子供たちに夢を与えていただくとともに、さまざまな事業にご協力をいただいております。

そして、今年度4回目のミッションから帰還後の平成26年8月20日には、市民会館おおみやにおきましてミッション報告会を開催いたしました。そこには1,000人を超えるたくさんの市民の方々にもご参加をいただきました。

こちらの画面は、そのときの様子が写真で掲示されているものであります。このミッション報告会の中で、日本人初の国際宇宙ステーションのコマンダーとして活躍され、多くのさいたま市民に宇宙への夢と希望を与えてくれた功績をたたえとともに、これからの活動への期待を込めましてさいたま市長特別賞を贈呈させていただきました。

また、ミッション報告会の後には、市民会館おおみやから大宮区役所ま

で祝賀パレードを開催いたしまして、沿道には約5,000人の市民の皆さんが駆けつけて大歓迎を受けたのは記憶に新しいところであります。

これまで若田宇宙飛行士の展示物は、館内のいろいろな場所に点在しておりましたが、そうしたものを1カ所に集めまして、さらに若田顕彰事業の総決算としまして、青少年宇宙科学館の2階宇宙広場約120平方メートルのスペースに新たに「若田光一宇宙飛行士コーナー」というものを新設しまして、常設展示とすることといたしました。

オープンは3月1日でございます。それに伴いまして、「若田宇宙飛行士コーナー」オープンセレモニーを実施いたします。

日時は3月1日、時間は9時20分から9時50分、場所は青少年宇宙科学館プラネタリウムホール及び若田光一宇宙飛行士コーナーでございます。新設に当たりまして、若田光一宇宙飛行士からのスペシャルメッセージもいただいておりますので、当日放送させていただく予定でございます。

それでは、新設される展示物についてご紹介いたします。これは、まず今回新登場のISS国際宇宙ステーション内の個室でございます。若田宇宙飛行士がプライベートな時間を過ごしましたISSの個室を再現したものであります。「どうやって無重力の中、寝るのだろうか」という疑問にも答える展示物で、寝袋につきましても忠実に再現をさせていただきました。

次に、これは新登場のISSのトイレでございます。子供たちの「宇宙でトイレはどうするのだろうか」という疑問に答えるための展示物であります。

そして、これらは帰国の際に若田宇宙飛行士ご本人から特別に借用いたしました初公開の品でございます。1つ目は、ご本人の署名の証明書付きのフライトスーツでございます。ジェット訓練機で使用したものであるということです。2つ目は、コマンダーに就任後のISS内で着用していたクルーシャツだということです。

ぜひたくさんの方の市民の皆さんにご来館していただきまして、若田宇宙飛行士や宇宙について興味・関心を高めていただきたいと思います。

さいたま市では、今後も宇宙劇場と青少年宇宙科学館の両館で連携を図りながら、子供たちに宇宙の夢や、あるいは希望を育むため、例えば若田宇宙プロジェクトのような新たな事業の実施に取り組んでいきたいと考え

ております。そして、第2、第3の若田宇宙飛行士がさいたま市から誕生することを期待してやみません。

私からの説明は以上でございます。

議題に関する質問

- 朝日新聞 それでは、質問に移らせていただきます。
- 幹事社からですが、市民マラソンなんですけども、ペースランナーを今年から導入する、その導入される意味というのはどういう意味があるんでしょうか。
- 市長 基本的には、2時間と2時間半ということで、完走していただくためのペースというのをより多くの皆さんに知っていただいて、そしてできるだけ完走していただく方をさらに増やしていきたい、こんな思いでペースランナーというのを配置させていただきました。
- 朝日新聞 あと、市外からの参加者なんですけど、この割合というか、人数については増えているんでしょうか。
- 市長 それは、市内と市外の割合ということですか。
- 朝日新聞 はい。
- 市長 担当のほうから。
- 事務局 ほぼ昨年と同様の割合という形になってございます。
- 朝日新聞 参加人数も同じぐらいですか。
- 事務局 そうですね。1万5,000人定員で、若干増えているというか、同じような規模の人数になってございます。
- 朝日新聞 あと、若田さんのほうなんですけども、これは入場のほうは無料では入れるんですか。
- 市長 無料です。
- 朝日新聞 あと、シティマラソンのほうになりますけど、今年度でハーフマラソンは最後になると思うんですけども、その新しい今年の秋に予定されていますほうの進捗状況というのはどういった状況でしょうか。
- 市長 シティマラソンにつきましては、先般もお話ししましたけれども、現在、関係団体、機関と協議をしている最中でございます。

- 朝日新聞 いろいろをめぐりに。
- 市長 1つは、市議会あるいは県議会でのご議決も必要となりますので、それ以降ということになると思います。
- 朝日新聞 幹事社からは以上です。
各社さん、ありますでしょうか。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。お願いします。
シティマラソンに関連してお伺いします。今年に入ってからパリでシャルリ・エブドの襲撃事件があったり、先日もデンマークで銃撃のテロ事件があったりということで、テロが相次いでいます。今回大きいイベントということで、警備体制というのが非常に大事だと思うんですが、こういった事件の連続発生を受けて、何か見直した点があったようでしたら、それを教えていただきたいということと、安全な開催に向けての市長の決意というか、思いというか、そういったものを改めてお伺いしたいと思います。お願いします。
- 市長 2013年の4月に起きましたボストンマラソンでのテロ事件以降、警備員の増員であるとか、あるいは配置の見直しを行い、警備体制を警察とも協議をしながら強化しているところであります。また、会場周辺では危険物の持ち込み禁止、あるいは不審物を発見した際の対応を場内アナウンス等で呼びかけております。
いずれにしても、昨今こういう事件というか、テロ事件が相次いでおりますので、そういったことも十分念頭に置きながら埼玉県警と連携を強化し、こういった事故、事件がないように万全を期していきたいと思っております。
- 埼玉新聞 今回の事件を受けて、具体的に警備体制を変えたとか、そういった部分はあるのでしょうか。
- 市長 警備については、昨年より少し強化をしております。昨年も2013年のボストンを受けて、その前の年より強化をしましたが、さらに去年よりも今年は強化をして取り組んでいるということでもあります。いずれにしても、県警と連携をして、そういった事件が起こらないように万全を期していきたいと思っております。
- 埼玉新聞 昨年より強化したというのは、事件を受けて強化したのか、それとも当

初から今回開くに当たって強化するという形の中での強化なのか、どちらなんですか。

○ 事務局 強化につきましては、先ほどお話がありましたけれども、ボストンマラソン以降、警察と協議しながら、強化を常に改善しながら図ってまいっておりますので、今回に限ってということではなくて、継続して行っているというところでございます。

○ 朝日新聞 ほかにいかがでしょうか。

では、幹事社として代表質問に移らせていただきます。質問はまとめて行いますので、よろしくお願いします。

幹事社質問：

① 順天堂大学病院が浦和美園地区に新設されるにあたり市としての協力方法は？

② 北陸新幹線開業に合わせて市をPRする独自の計画は？

先月、順天堂大が浦和美園地区に医学部附属病院を新設する方針を固めたという報道がありました。市長は昨年6月議会でも「具体的な進出計画の際には協力したい」との答弁をされましたけれども、この計画に関して、市としての協力の方法や金額等の具体的なものがあれば教えてください。

2点目ですが、3月14日に北陸新幹線の金沢から長野が開業いたします。市長は、先日の2015年度の施政方針で北陸新幹線の開業についてはビッグチャンスの到来と位置づけられて、新幹線の大宮始発を働きかける旨の発言をされていましたが、北陸新幹線の開業にあわせて大宮駅とかさいたま市をPRして、あと観光客とか企業を呼び込む市の独自の具体策とか具体的なものがあれば教えてください。よろしくお願いします。

○ 市長 それでは、幹事社からの質問に順次お答えをしたいと思います。

まず、1点目の順天堂大学の件につきましては、でございますが、このたびの大学病院誘致につきましては、埼玉県が地域保健医療計画に基づきまして、医師の確保及び育成に資する病院等として病院整備計画の公募を実施したものであります。

その結果、学校法人順天堂から浦和美園地域を候補地とする病院整備計画の応募がなされました。県では、今後医療審議会の意見などを踏まえまして、本年3月までにこの計画を採用するかどうかを決定する予定と伺っております。

本市としましては、浦和美園地域におきまして、これまで企業や教育機関等の誘致を進めてきたところでありまして、また地権者も福祉医療機関に大きな関心を持っていることから、本地域に病院が進出することは、まちづくりに弾みがつき、本市東部地域の成長発展に大きなインパクトをもたらすものと考えております。

今回の大学病院の誘致は、埼玉県が進めているものであり、市としての具体的な協力方法などにつきましては、今後県からの依頼に応じまして協議検討を行うものと考えておりまして、まだどういう形でということは決まっております。

いずれにしても、県から協力依頼があった際には、まちづくりのコンセプトや、本市においてこれまで誘致をした病院への支援状況なども勘案しつつ、議会を初め医師会等の関係者のご理解もいただきながら協力をしていきたいと考えております。

続きまして、2つ目の北陸新幹線に関する質問にお答えをしたいと思います。北陸新幹線の開業に伴いまして大宮・金沢間が直結をし、所要時間も大宮・金沢間で最速で2時間4分、大宮・富山間は最速で1時間44分と大幅に短縮をされることとなります。これによりまして、首都圏と北陸地方の文化、産業、経済などの交流が活性化され、これまで以上に大宮駅が注目されるとともに、地域経済への波及効果の期待も高まるものと考えております。

本市の取り組みといたしましては、北陸新幹線開業にあわせまして、3月14日土曜日に新高岡駅で開催される開業記念イベントにおきまして本市のPRブースを出展して、新幹線利用者を初めとした方々に本市のよさをアピールさせていただこうと考えております。これによりまして、本市の認知度をさらに高め、訪問人口の増加につなげていきたいと考えております。

また、「鉄道のまち さいたま」を広く内外にPRすることを目的とし

して、翌週の3月21日土曜日に東日本旅客鉄道株式会社と共催で大宮駅開業130周年記念イベントを開催いたします。このイベントを通じまして本市の鉄道文化を広くPRしてまいります。

あわせて、北陸新幹線開通を契機といたしまして、新幹線沿線地域の皆さんから出店をいただいたり、あるいはPRの場を設けたり、大宮駅周辺の商店会と連携したにぎわいを創出することで、大宮駅周辺の商店街、商業施設の利用促進、そして市内の地域資源の情報発信を行っていくとともに、あわせて北陸地域との連携の第一歩にしていきたいと考えております。

さらに、大宮駅周辺地域を会場に東日本旅客鉄道株式会社と共同で5月23日に鉄道ふれあいフェアを開催いたします。これでも地域経済の振興を図っていく予定であります。

また、この新幹線の開業等を契機とした企業誘致につきましては、本市ではかねてからさいたま市への立地意向について企業アンケートを実施しております。平成25年度、また26年度につきましては、北陸新幹線の開業を見据えまして、調査対象に北陸地方の企業等を加えて実施し、有効回答を得た企業に対して企業訪問を実施させていただいております。

その際には、あわせて現地の金融機関等を訪問し、情報交換を行ったところでもあります。今後も企業訪問及び関係機関訪問を継続的に実施して企業誘致にもつなげていきたいと考えております。

私からは以上です。

幹事社質問に関連する質問

- 朝日新聞 代表質問に関して幹事社から質問させていただきます。
順天堂の件なんですけれども、当該の土地を市が買い上げて無償貸与するというような案も出ているそうですけれども、そういうことも含めて検討していくということでよろしいでしょうか。
- 市長 現時点では、具体的な協力方法等については、県のほうの医療審議会等での決定なども待ってからということになるかと思っておりますので、今後県の依頼に応じて協議検討していきたいと考えております。
- 朝日新聞 県側からこういう病院を設置したいというような協力の要請が来たとき

に、市側から出す注文というか、市としてはこんな病院があるので、こういう設備を順天堂さんにはつくってもらいたいというような、そういう何か意見というか案というかはあるのでしょうか。

- 市長 基本的に協力をするということになる場合には、市民のためであったり地域医療の進展にもご協力をいただくということが前提となってくると思いますので、もし具体的な協議ということになって、県からそういった要請があれば、そのタイミングで協力方法について検討するとともに、あわせてこちら側のこういったことについてご協力願いたいということもあわせてお願いしていくということになると思います。
- 朝日新聞 あと、2点目の北陸新幹線に関してなんですが、向こうの企業訪問というのは25、26年度で何件ぐらいありましたか。
- 事務局 産業展開推進課です。企業訪問につきましては、25年度2社、26年度につきましては2社という形でございます。
- 朝日新聞 そのうち、こちらに進出された企業というのはあるのでしょうか。
- 事務局 まだ企業訪問している状況なものですから、今後の検討という段階になっております。
- 朝日新聞 あと、富山大学さんとかがこちらのほうで入試をやっているということですが、こちら側から向こうに何かアンテナショップ的なものをつくるのか、そういうお考えはおありですか。
- 市長 現時点ではまだそこまでは考えておりませんが、今後こちらから向こうに、さいたま市も鉄道博物館であるとか、あるいは盆栽美術館とかいろいろな観光資源もあつたりもしますので、そういったキャンペーン等々でお伺いをするというようなことは今後検討していく必要があると思っておりますけれども、まだアンテナショップ等をつくるというところまでは考えておりません。むしろ逆に北陸のほうからさいたま市に、首都圏マーケットということの中で協力できることがあればというようなこともあわせて検討していきたい、取り組んでいきたいとは思っています。
- 朝日新聞 幹事社質問に関して質問のある方、各社さん、お願いします。
- 読売新聞 読売新聞と申します。よろしく申し上げます。
北陸新幹線のほうなんですけれども、新高岡のPRブースの話なんです
が、もう少し具体的な内容と、あと市としてこういうブースを出展するこ

とによってどういうことを狙っているのかという目的について教えてください。よろしくお願いします。

- 市長 私のほうから概略を少しお話しして、あとは担当課から説明させていただきますが、まずこの新高岡のイベントに出るということについては、この新高岡でのイベントが駅の内外で地元あるいは近隣の自治体と連携をした観光客等が楽しめる内容が企画されており、多くの集客が見込まれているということで、市のブースを出させていただくことでPR効果が非常に高いろ判断をして出させていただきます。

そして、さいたまクリテリウム等のパネル展示であるとか、さいたま市のPRキャラクター、つなが竜「ヌウ」、パンフレット等を活用して、本市を知っていただくためのPRを実施していきたいと考えております。さらに、高岡市、また氷見市など自治体同士の交流を積極的に図って、首都圏でのイベントなどにも連携ができればとも考えております。

何か補足することがあれば。

- 事務局 新高岡駅のほうには、さいたま市のほうから職員3名と、あと市のPRキャラクターであるつなが竜「ヌウ」ということで、3プラス1でブースを1つお借りしまして、そこで14、15両日にわたってPRをさせていただくということで、逆に向こうの高岡市さんとか金沢市さんもこちらに来て大宮駅でPRすることもありますので、今後連携を密にしてお互いにPRをしていきたいと考えております。

- 読売新聞 追加してなんですけれども、先ほど市長のほうからクリテリウムのパネルの展示等々あったのですが、もう少し内容をもし決まっているものがあれば教えていただけますか。

- 事務局 クリテリウムのパネルのほかに、つなが竜「ヌウ」の着ぐるみ、それと市の観光パンフレット、企業誘致の関係のパンフレット等も持参して、それを並べてPRをするということになります。

- 読売新聞 これは14、15の両日のみということですか。

- 事務局 イベント自体が14、15の両日に行われますので、そこでPRをさせていただくことになります。

- 読売新聞 新高岡駅の構内になるのですか。

- 事務局 その辺は、現地に行ってみないと、その場所というのが駅の駅広なのか

中なのかというのが (わからない状況です) (会見後追加)。

- 読売新聞 駅の近くというか。
- 事務局 駅周辺ということで、構内も含めてということになります。
- 読売新聞 わかりました。ありがとうございます。
- 日本経済新聞 日本経済新聞と申します。病院の誘致に関連してお伺いします。
先ほど市長は県からの今後の依頼に応じて検討するとおっしゃられましたけれども、当然市としてもいろいろなシミュレーションはされていると思うんですが、先ほどの市が買い上げて無償貸与するというのも選択肢の一つとして視野には入っているという認識でよろしいのでしょうか。
- 市長 まだ具体的な手法とか方法については何とも申し上げられませんが、先ほども申し上げましたとおり、浦和東部地域の発展、まちづくりについては非常に大きな効果があるプロジェクトであると認識をしておりますので、そういったことも踏まえながら協力をしていこうという状況であります。
あと、具体的にどういった協力の要請があるのかということについては、まだ現状としては把握をしておりませんので、それを受けた段階で検討していきたいと思っております。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。北陸新幹線の開業に関連してお伺いします。
先日市が行った経済動向調査で、これは新幹線の開業だけではないんですけども、そういった新幹線開業を含む交通の整備がどの程度影響を及ぼすかということをさいたま市内の企業にアンケートをして、その結果、ほとんど影響ないですとか、それによってそちらの開業する地域に進出する予定がないとか、そういった消極的な回答をされた会社が非常に多かったなということが出てきています。実際の今回の開業では、金沢とか富山のほうの企業のほうは、行政もそうですけど、非常に積極的だなというのを感じていまして、それとの温度差をすごく私自身感じたんですが、この調査結果については、市長はどのように受けとめて、先ほどおっしゃっていた開業を受けて、こうしていきたいというような目標を達成するためにどういうふうにしていきたいとお考えでしょうか。
- 市長 先般の地域経済動向調査においては、そういった影響について今のところ特にないという回答が多かったということでもありますけれども、「現時点

において」ということでありますので、今後開通した後にいろいろな変化が起こってくる中でそういった部分については感じていただけるのだろうということが1つ。

もう一つは、この調査結果の中でまちづくりや経済振興に必要と思われる施策の要望については、「中心市街地の一層の魅力」であるとか、「さいたま市の観光PR、物産展の開催」と回答する企業が多かったわけですが、そういったことから、高速道路、あるいは新幹線の開通、延伸の効果というのがこういったものにさらに結びついて、地域の企業の皆さんにいろいろなプラスの要因が働いてくると思っておりますので、私たちとしては、地元の企業さんと、新たに交通の利便性が高くなり、今まで以上に交流が可能となった地域とうまく連携の橋渡しをやっていくことによって、これをまさにチャンスと捉えて、地元企業の活性化あるいはプラスということにつなげていきたいと思っております。

ある意味では、これまで北陸地域というのは交通が行きにくかったというようなことがありますので、余り結びつきがなかったというのが実態だろうと思っておりますので、そういう意味ではまだなかなかイメージし切れないところがあるかと思えます。

去年も高岡商工会議所の方々を初め北陸からも幾つかの地域の商工会議所の方々に来ていただいたりなどもございましたので、私たちとしては今回の機会が今までつながりのなかった地域あるいは企業と積極的に結びついていく大きなチャンスであると思っておりますので、そういったことを積極的に取り組んでいく中で地域経済の活性化につなげていきたいと思っております。

- 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。3月21日にJRとの共催のイベントを開催することなんですけれども、その具体的な内容について教えていただけますでしょうか。
- 市長 では、担当のほうから。
- 事務局 シティーセールス部です。JRの大宮支社と大宮駅、さいたま市ということで、3者の共催で大宮駅の構内、もしくは鐘塚公園、大宮駅周辺を含めまして開催する予定でございます。
- 市長 もう少し補足しますと、大宮駅構内と西口と東口で開催をさせていただきます。

く予定になっております。開業トークショーとして、つくば駅長さんと、鉄道ファンとしても知られておりますコメディアンの中川家の中川礼二さん、それと私とトークショーを開催させていただいたり、鉄道三昧でたくさんイベントを組み入れておりますので、後ほどまたパンフレットを差し上げますので、ごらんいただきたいと思っております。

- 埼玉新聞 追加でなんですけど、このイベントが、実は3月16日が大宮駅開業130周年、そういうのと絡んでいるかと思うんですけど、これはいわゆる北陸から新しくいらっしゃるお客様向けに開催されるものなのか、それとも県民といいますか、市民といいますか、地元の方にそういうのを知っていただくという、その発信先でこういうイベントを開催することによって、どういう方々にこちらに来ていただいて、どういうことをしていただくという、その辺の期待ですとか狙いというのはどのあたりなんだろうか。

- 市長 基本的にメインは大宮駅。さいたま市は鉄道のまちとして鉄道の発展とともに発展をしてまいりましたので、そういう意味でさいたま市の中でも特に大宮駅の存在というのは大変大きいものがあります。

その130周年ということをも市民の皆さんを含めましてお知らせをするとともに、この大宮駅は東北、上越、信越、それから今回北陸ともつながります。それから、北陸新幹線の開通の日には宇都宮線、高崎線の上野・東京ラインも開通をして、乗りかえなしで東京あるいは神奈川方面まで行けるような状況になりますので、そういったこともあわせてお祝いをするとともに、その中でこれまでつながりの余りなかった北陸の皆さんにも参加をいただくことで、新たなにぎわいづくりであったり新たな発展のスタートとなるイベントにしようということも目的の一つとしてはあるのだろうと思っております。

- 朝日新聞 ほかにありますか。

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。北陸新幹線についてももう少しお伺いしたいのですが、先ほど市長はチャンスだということをおっしゃいましたが、大きい目で見ますと、今まで金沢とか北陸地方というのはどちらかという関西圏だったと思うんですが、それが東京圏になる可能性があるということだと思うのですが、そういった認識のもとに今後いろいろ各施策を行っていききたいと

いう、そういう意味でのチャンスということによろしいでしょうか。

- 市長 そうですね。実際に、さいたま市の新幹線の交通アクセスが、幾つかの会社にとって工場が立地しているところから非常に利便性が高いということが一つの理由となって、さいたま市に本社を移転するというようなケースもこれまで幾つかございました。

ですから、そういった首都圏の中での企業立地、企業の誘致にもつながっていくだろうと思っておりますし、また北陸地域の皆さんが首都圏でいろいろな形の経済活動をやるときの、一つの首都圏の玄関口といった役割もさいたま市としてはできるのではないかとも思っておりますので、そういう意味ではそういう2つの側面からお互いに、いわゆるウイン・ウインの関係がつかれるようにしていきたいと思っております。

- 埼玉新聞 また、関連してもう一つあるんですが、北陸新幹線開業と、あと上野東京ラインが開通すると同じことがあって、同じ日に2つがあって、来年には北海道新幹線ということで、大宮駅の交通の利便性がますます高まりますし、あと重要性も増すと思うんですが、その中で市のほうが新幹線の発着、始発に大宮駅をしてほしいということでJRのほうに申し入れ等をしていると思います。この点についてですね、先日私、大宮支社長の会見のときに、ちょっとJRさんのほうの考えを伺ってみたんですが、やはりですね、あちらとしてはさいたま市と一緒にやっていきたいと。お願いされるだけでは、そういったことを実現するのは難しいんじゃないかなということで、かなり市のほうの積極的なまちづくりとか、駅のグランドセントラル化構想、市長もおっしゃっていますが、そういった高機能化等も含めた総合的な施策をどんどんやってほしいというのをかなり要望しているのかなと思ったんですが、その辺の市としての大宮駅周辺のまちづくり、または駅の高度化を今回の開業を受けて、例えば起爆剤にしていくとか、どういった構想でそのまちづくり等を進めていくおつもりでしょうか。

- 市長 1つは、今年度からスタートしましたJR東日本さんと、それから東武鉄道さん、そしてさいたま市と埼玉県にも入っていただいて、この駅の機能ということについても今、意見交換をさせていただいています。

そして、駅の機能だけではなくて、周辺のまちづくりも含めていろいろ

な意見交換をさせていただく中で、恐らく将来的には、例えば北陸新幹線が今年開通して、来年北海道新幹線が開通をする等々、今後、そういった交通網の利便性が高くなることによって、徐々にダイヤの増便ということも多分可能性としては出てくるだろうと私は思っているのですが、そうすると現在大宮東京間は非常に混雑をしていて、物理的に難しい状況もあるのだろうとっております。

その中で、特に今新宿等々、西側のほうへ行かれる方は大宮駅で下車をされて、そして乗りかえて埼京線等で行かれたほうが時間的にも早いということで、そういう乗り方をされる方もかなり増えてきているというお話も伺っておりますので、今後のことを考えると、私たちとしては可能性が十分にあるだろうということが1つ。

あと防災上の首都直下型地震が起こった際にも、今後、東西の交通網がかなり麻痺してしまう可能性があるだろうと。東京中心だけで考えていくとですね。

その中で、大宮周辺は地盤が比較的かたいということなどもありますので、被害が比較的少なくて済むだろうといったことを考えても、そういった機能を持ってもらうことが防災にもつながるし、あるいは交通網の拡充ということにもつながっていくだろうと私たちは考えています。

あわせてまちづくりとしては、その受け皿としての機能を強化していこうということで、西口、東口のまちづくりということについても検討を進めているわけですが、特に両方にとって駅とのアクセスというのも一つの大きな課題であったり、駅周辺の広場の問題が課題であったりもしますので、そういったテーマについても、あわせてJR東日本さんたちとも協議というか、意見交換をさせていただきながら、東日本の中枢都市、あるいはこの大宮が東日本のハブステーション、グランドセントラルステーションになれるような取り組みについても、さいたま市としても積極的に取り組んでいきたいと思っております。

○ 埼玉新聞

大きな構想はあるということですが、ただスピード感も大事だと思うんですが、例えばおおむねどのぐらいの、あと何年後ぐらいにそういったグランドステーションとかハブステーションの機能を果たせるぐらいのまちと、あと駅にしていきたいと、そういった何か大まかな青写真みたいな

ものありますでしょうか。

- 市長 そうですね、まず東口のまちづくりについては、シンボルプロジェクトとして今大門町2丁目の中地区、それから大宮区役所の移転建てかえというのをリーディングプロジェクトとして進めているわけですが、あわせて、駅前広場、あるいはその周辺のまちづくりということについても、これは積極的に考えていく必要があると認識をしております。

それから、西口についても、今第4街区についてはあと2年ぐらいで区画整理については終わるということですが、第3街区のBは今年中には都市計画決定ができるだろうという見込みが立っておりますし、3-AとDも今順調に進んでおりますので、そういったこともあわせて、以前から申し上げていますが、ここ5年から10年というのが、私たちにとっては大きな、重要な時期であると認識をしておりますので、その中で、まちづくりだとか駅の機能は、そう簡単にすぐには実現できるものではありませんけれども、その間に大方のめどはいろいろな形でつけていきたいとは思っております。

その中で、区役所とか大門町2丁目については大まかに時期を設定してやっているところではありますが、それ以外についてはもう少し時間はかかるだろうと思っておりますけれども、そういった受け皿としての都市機能の拡充と、あわせて駅の機能の拡充というようなこともJRさんといろいろご議論をさせていただきながら、それぞれ役割があるかと思っておりますので、役割の中で検討して実現をしていきたいと思っております。

- 朝日新聞 ほかにご質問ある方いらっしゃいますか。

それでは、そのほかについて質問ある方はお願いします。

その他：大宮駅大門町2丁目中地区再開発に関してNHKが移転を断念した影響について

- 毎日新聞 毎日新聞です。

先ほどもちょっと話に出ていましたが、大宮駅東口の大門町2丁目地区の再開発についてなんですが、先日NHKのほうに移転を断念というのを正式に発表されましたが、今ほかのテナント探しで、4つぐらい商業施設が打診中だというようなことは伺っていますが、具体的に市長のほうから

全体のスケジュールに及ぼす影響がないのか、あるいはどういったかわりのテナントを今模索しているのかといったことと、あとNHKが断念したということについて、この大門町2丁目の再開発全体に及ぼす影響はどういったものがあるのかというのを、市長の考えをお聞かせください。

○ 市長 まず、NHKがご辞退をされたということについては、この大門町2丁目中地区につきましては、大宮駅東口まちづくりのリーディングプロジェクトであるということで位置づけて、市民の皆さんからも非常に期待をされている事業でありますので、こういった形になったことは残念であると思っております。

ただ、今回の協議の結果については、東日本の大震災という大変大きな出来事があって、その中でNHKの経営計画が災害時のいろいろな対応をしていく上で、どうしてもやむを得ないというものであると認識をしているところであります。今後は新たな参加希望者も数社出てきておりますので、そこと調整をしながら全力で準備組合を支援し、できるだけ早い時期にこの完成を目指して、さらに頑張っていきたいと思っております。

○ 毎日新聞 あとは、中身が変わるということで影響は少なからずあるかと思うのですが、にぎわい創出だとか、時期的な部分で影響があるかどうかというのを。

○ 市長 1つは、にぎわいという問題については、もちろん当初はNHKさんが考えていたのは単なる放送局ではなくて、かなりアミューズメント性のあるような、放送局ということが提案されたわけで、そういった部分がなくなるという部分もあるわけですが、ただもう一方で、やはり商業施設等ということでも十分ににぎわい創出にはつながっていくと思っておりますので、にぎわい創出に大きな影響は出てこないとは思っております。

あと、今後のスケジュールについては、現在この準備組合から組合にしようということで、できれば3月末ぐらいまでにはそれをしていきたいと思っております。その前の準備組合の総会までには新たな参画者というのでしょうか、NHKに代わる場所がある程度内定できるように準備を進めていきたいと思っております。

○ 毎日新聞 内定できるようにというのは、今可能性は高いというふうに、総会までに新たなテナントを内定できる可能性は高いという状況なのか、あるいは

そう希望しているという状況なのかというのをお聞かせください。

○ 市 長 幾つか不動産系の企業を中心に4社ぐらい来っていると伺っております。具体的ないろいろな形でのご提案、あるいは参加希望というのを寄せていただいていますので、そういった中から十分ご意見を聴取しながら決めていきたいと思っておりますけれども、私たちとしては目標として、そのタイミングでできるようにしていきたいということです。

○日本経済新聞 済みません、日本経済新聞と申します。

その大宮駅の大門2丁目の件で、今不動産系の企業を中心に4社というふうにおっしゃいましたけれども、これいずれも商業施設を展開されるというご提案ということではないのでしょうか。

○ 市 長 そうですね、はい。

○日本経済新聞 このNHKの後継の施設として、市として企業誘致をいろいろ進められている観点からすると、企業の本社機能だったりを誘致するという選択肢もあったのかなと思うんですけれども、あえてここで商業施設というところで絞った理由というのがあればお聞かせください。

○ 市 長 やはり大門町2丁目はかなり駅から近い場所にあって、いい立地にございますので、そういう意味では本社ということ、もちろんそれも全く選択肢にないわけではありませんけれども、やはり商業ということで、より一層大宮駅東口のにぎわいが創出をできるのではないかと考えております。

○ 朝日新聞 朝日新聞です。

その他：上田知事が立ち上げた「プロジェクトせんたく」についての市長所見は。

先日ですね、上田知事がみずからに近い県議らを集めてですね、「プロジェクト・せんたく」というものを立ち上げましたけれども、市長はこの動きをどのようにご覧になっていますでしょうか。

○ 市 長 そうですね、この「プロジェクト・せんたく」という団体が設立されたことについては、新聞等の報道を通じて承知をしています。

ただ、どういう政策を打ち出していくのかということなど、まだまだ具体的な取り組みとが明らかになっておりませんので、今後の動向を見守っ

ていきたいと思っております。

○ 朝日新聞

4年前に市長が改援隊というのをつくられて、知事はせんたくというので、どっちも何か坂本龍馬に関連するような名前だなと思って、動きが非常に4年前と似ているんじゃないかなと、その市長がやられたことと。思うのですけども。4年前改援隊を立ち上げられて、先日ちょっとお聞きしましたけども、その改援隊を立ち上げられた思いとか理由、どのようなあれで立ち上げられて、先日ある程度の役割は果たせたというふうにおっしゃいましたが、どのようなものを果たして、ちょっと人知れず消えていったみたいな感じもあったんですが、どのようなことはできなかったのかというようなことがあれば、お願いします。

○ 市長

改援隊については、私たちは基礎自治体としてまちづくりをしていく上で、1つは対議会ということであれば、二元代表制でありますから、それぞれ役割もあるし、機能もそれぞれあるわけでありまして、そういう意味では、議会が首長の言っていることを全て追認するというのが必ずしもいいとは私自身も思っておりませんでした。

ただ、やはり同じ方向を向いていく中で議論していくものとそうでないということになった場合とは、やはり少し違いがあったりもするので、より危機意識を共有できる議員さんが増えてくれればいいなという思いでつくったわけです。

(それと、) (会見後補足) これから基本的には基礎自治体が住民に最も近いところで行政をやっていますので、市民のニーズを十分に把握をして、その中でいろいろなことを決定をしていく、そして基礎自治体だけでは効果が上がらない、できないというところは、広域的な自治体である県や、あるいは国がそれをサポートしていくという体制が、本来の補完性の原則で重要だと思っておりますけれども、そのために、余り政党云々ということではない枠組みで取り組めればという、そんな思いでつくらせていただいたわけですがけれども、いろいろな過程の中でそれらの思いについては100点とは言えないかもしれませんが、議員さんたちと共有ができたり、一定の役割はできたのかなとは、私自身は考えております。

○ 朝日新聞

危機意識を議員さんと共有したいということで、危機意識というのは、具体的にはどんなことに対する……

- 市長 要するに西と東を向いていたら、議論してもなかなかこれは決まってい
かないわけですが、同じ方向の中でやれば、議論があったり、あるいは
チェックはもちろんあったとしても、ある程度の決定ができてくると。
地方自治体は、私たちは行政で、議会でいろいろ議決をいただいた上でそ
れを執行していくというのが役割ですね。そういう意味では、議会の役割
というのも大変大きなものがありますので、その中で余り両者が違った形
だとやりにくくなるというようなこともあるとも思っておりましたし、そ
の中でいろいろな改革や、あるいは取り組みということがお互いに議論が
できるような、そういう形になればという思いでやってきたわけです。
- 朝日新聞 ある一定の役割は果たしたとおっしゃいますけども、それは成功だった
のか、でも一般的に言うと、何というか人知れず消えてしまったから失敗
だったんじゃないかという意見も多いですけども、市長としてはどう総括
されますか。
- 市長 それなりの役割は、要するに地方分権とか、そういうものの大切さみた
いなことは議会とも十分共有ができたとも思っていますし、そういう意味
では100点ではないとは思っていますけれども、あるいは課題もあった
かもしれませんが、それなりに役割は果たせたとは私は思っていま
す。
- 朝日新聞 当時、立ち上げと同時に議会改革とかを掲げられて、議会側のですね、
一部党派から猛反発を受けたというのがありますが、上田知事に今回アド
バイスするとしたらどんなことが。
- 市長 その辺は、今回多分「せんたく」と私がやったのと違いは、「せんたく」
のほうはあくまでもやはり議員さんが代表であるということですよ。
そこが改選隊とは違うというところはあると思います。ですから、特に
私がやったことに対して知事にアドバイスできるようなことは特にありま
せんけれども、それぞれいろいろな思いがあって、応援したり、立ち上げ
たりされているんでしょうから、その中で私たちも見守っていくというこ
とだろうとは思っています。
- 朝日新聞 市長が何か合流されるとか、参加されるとかいうご意思はありますか。
- 市長 基本的にはありません。県議会の選挙ということでもありますから、そう
いう意味ではございません。

その他：県議選での市長の支援について

- 毎日新聞 関連してなんですが、県議選で、さいたま市内の選挙区でこれから、まだプロジェクト・せんたくの具体的な候補者は発表されていませんけども、これから立てていくということもあるかと思うんですが、その候補者に対してですね、支援を求められた場合に、市長はどうされるお立場かということをお聞かせください。
- 市長 基本的には、県会議員の選挙とは少し距離を置くというつもりであります。ただ、私の秘書をやっていた者が出馬を検討しているようでありますので、そこについては党派がどうかということではなくて、政治家として、また個人のいろいろな思いとかということを総合的に判断して、そこだけは応援をしたいとは思っておりますけれども、特にどここの党派だからとか、どういったグループだからということで応援するということは考えておりません。
- 毎日新聞 確認なんですけども、「プロジェクト・せんたく」以外でも、自民党だとか、共産党だとか、無所属だとか、そういったほかの党派、党派の方も一線を画して、県議選とはちょっと距離を置くということでもよろしかったでしょうか。
- 市長 今のところは、ですから今言った例外的なことは除いて、基本的には現時点では考えていないということです。
- 朝日新聞 ほかいかがでしょうか。

その他：他自治体の同性カップルに対する証明書を発行する条例案についての市長見解は？

- 東京新聞 東京新聞といます。
ちょっと話変わるんですけども、先日ですね、渋谷区が同性カップルに対して結婚に相当する関係であるということを証明する証明書を発行するという条例案を発表しました。また、世田谷区長もですね、同様の施策を検討しているというような発言が報道されました。それに関して2点お尋ねしますけども、まずこういった報道について、市長としてどんなふうにお感じになっているかという受けとめが1点。

それから、今現時点ですね、現時点でさいたま市で何かこういった問題について、今後検討していくという具体的なお考えがあるのかどうかをお聞かせください。

○ 市長 1つは、性的なマイノリティーと言われる方々への差別があってはいけないとは考えております。ただ、制度的にとか、あるいは渋谷区がやったようなことについてやるかどうかについては、まだ何も今考えていない状況です。

○ 朝日新聞 ほかいかがでしょうか。

どうもありがとうございました。以上をもちまして、記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進行 以上をもちまして、市長定例記者会見を終了させていただきます。

次回の開催は、3月12日木曜日、1時半からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

午後2時37分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。